

令和5年度広島県デジタルトランスフォーメーション意識啓発業務
公募型プロポーザル選定委員会 議事要旨

項 目		内 容
1	日 時	令和5年5月30日 9時30分から12時00分まで
2	場 所	広島県庁本館3階302会議室 ※提案者はZoomにより出席
3	出席委員	総務局 DX推進担当部長 総務局 デジタル県庁推進担当課長 総務局 施策形成支援チーム政策監 地域政策局 中山間地域振興課長 商工労働局 イノベーション推進チーム担当課長（地域産業デジタル化推進担当）（代理：イノベーション推進チーム主査）
4	議 題	令和5年度広島県デジタルトランスフォーメーション意識啓発業務公募型プロポーザルに係る第2次審査（プレゼンテーション審査）について
5	担当部署	総務局 DX推進チーム
6	開催方法	参集（オンライン併用）
7	議事内容	<p>選定委員会において、提出された企画提案書を基にプレゼンテーション審査を行い、第2次審査の結果、最も得点が上位の提案者を最優秀提案者として選定した。</p> <p>A社：株式会社ザメディアジョン B社：株式会社中国新聞アド D社：株式会社広島リビング新聞社</p> <p>各選定委員の主な評価・選定理由については、次のとおりである。</p> <p>【A社】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の目的を理解した提案がなされており、類似する業務実績を踏まえたインタビュー手法の工夫など、一定の業務遂行能力は期待できるが、広報力含め、多様な読者への訴求力については評価しにくい。 ・取材記事の受け皿であるウェブサイトへの誘導対策に関しての提案がなかった。CMを強制的に見てもらうというのは、タッチポイントとしてはありかと思うが、採用媒体が、サイト誘導やそこからの行動変容までのプロセスを形成しにくいと考える。 ・広報はターゲットに情報が届くことが何より重要であると考えられるが、「ターゲットに見てもらう」ための具体策が不十分。

【B社】

- ・本事業の目的を十分に理解し課題と手法等を整理するなど、企画の遂行に期待ができる。
- ・ターゲットを考えたインタビューや広報が企画されている。
- ・ウェブサイトの誘導対策も検討されているが、広告を表示させるというだけでなく、いかに効率的に実施できるかが重要であることから、実施にあたっては、広告設計を精緻に実施する必要がある。
- ・情報を見てもらうため具体的かつ様々な方法を提案されている点が評価できる。一方、各ターゲットに提案の方法で情報が届く見込みが高いかどうかは不明瞭。

【D社】

- ・本事業の目的を踏まえた提案がされているが、DX の理解醸成の手法等の提案に関し、例えば、分かりやすい事例や複数の広報手段の位置づけなどについてイメージが掴みづらい。
- ・インタビューの企画には、魅力はあるが、広報手段に偏りがあり、あまり効果が期待できない。
- ・生活者一人一人へのアプローチによる身近に感じることの促しには一定の効果が見込める。企業の経営者だけでなく、従業員からも証言を得る工夫を評価したい。
- ・広報手段の独自性、強味はあると思う。一方、ポスティングエリア外や、紙面を見た人をどのように県 HP へ誘導するかが不明瞭。